

# 回覧



貴族院  
議員  
從二位勳三等子爵  
加納久宜

定員 **80名**

参加無料  
予約不要

講師

**江澤一樹**（一宮町教育委員会学芸員）

※施設内は土足厳禁、スリッパのため必要な方は  
中履きをお持ちください。

日時

2026. **3** 月 **7** 日(土)

13時30分 ~ 15時30分  
(受付：13時~)

会場

一宮町中央公民館1階大会議室  
(千葉県長生郡一宮町一宮2460)

問合せ

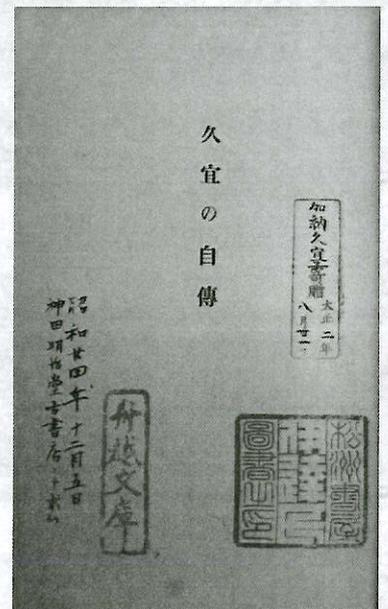
一宮町教育委員会  
0475-42-1416(平日のみ)

【写真】左上：加納久宜肖像（『芝蘭』1925年より）、  
中央上：名刺（一宮町教育委員会所蔵）、  
右下：『子爵加納久宜自伝』（私家版、1908年）  
冒頭部分（個人所蔵）

令和7年度第5回一宮町文化財講座

# ”地方創生の先駆け” 加納久宜

最新研究からみるその生涯と功績



# 一にも公益事業、二にも公益事業、 たゞ公益事業に尽くせ

—加納久宜遺言

一宮町の郷土の偉人・加納久宜。その実像とは—

没後100年の2019年より6年。最新研究の成果から  
郷土の偉人の実像に迫ります。

## 加納久宜(1848~1919)

嘉永元(1848)年、立花種道(下手渡藩(福島県)藩主・立花種周の弟)の三男として誕生。幼名は嘉元次郎(種章)。慶応3(1867)年、一宮藩主・加納久恒の急死に伴い急遽加納家に養子入り、藩主となる。

廃藩置県後、文部省督学局に出仕。以後盛岡師範学校長、新潟学校長を歴任後、法曹界に転じる。

明治27(1894)年には鹿児島県知事に就任。在任期間約7年間で、西南戦争で荒廃した鹿児島の復興に尽力した。農業や教育面での改革を行い、「勸業知事」と称された。晩年には郷里の一宮町の町長に就任、病院や学校などの整備、耕地整理、別荘地としての開発などに尽力している、町長を勇退したのち、大正8(1919)年に娘の夏子の嫁ぎ先である、麻生家の大分県別府の「山水園」にて死去した。

また、入新井信用組合(現城南信用金庫)の創設にも携わっているほか、帝国農会、日本体育会(現日本体育大学)、荏原中学(現日本体育大学荏原高等学校)、大森倶楽部、日本赤十字社など彼が設立や役職として関わった団体は数多く存在する。

